



～お盆楽しい思い出エピソード受賞作品 10 作品～

田舎にある本家である実家にはとりあえずよく人が集まる。正月お盆は軽く 20 人を超える。父の初盆の時はそれをまた軽く超えた大人数が集まった。昼も夜もワイワイしていて賑やか。

車で帰省途中でお店にあった 100 個くらい出来る水風船を購入していたので、子供たちと膨らませてたら、周りの大勢の大人達もその膨らむ様に盛り上がりました。

ぼちゃん！と大量の水風船が完成した途端…あちこちから手が出てきて一斉に投げ合いがスタート！子供は居ましたが平均年齢は高め。

田舎の家の広い庭を子どもと一緒に逃げ惑う 40 代 50 代 60 代。70 代は傍で観て笑っている。こんなにはしゃいだのは何十年ぶりかと思える程でした。

盛り上がる事が大好きな父も近くで笑って観ていただろうなあ。懐かしい思い出です。またいつか大量の水風船持って帰ろう。

コロナ渦でお盆は帰省はせず、家族で県内の温泉へと出掛けることにした道中、高速を走ってる途中で次女が突然「オムツ忘れた」とポツリ…。

次女はちょうどトイレトレーニングの最中で夜のオムツを取っている期間だったので家では失敗してしまうこともしばしば…。温泉旅館に行くのを楽しみにしていた分急におむつがないことで不安に！！親の私もオムツを履く機会が減っていたのですっかりおむつのことは忘れており慌ててサービスエリアへ寄ることに。

サービスエリアに置いてあったのは S サイズのおむつ。店員さんにおむつがないか尋ねてもないとのこと…諦めかけたその時、なんと！！店員と私のやりとりを聞いていた見ず知らずのママが私に話しかけてくれ、「手持ちのオムツですけど使って下さい」と一枚オムツを手渡してくれました！！

何かお礼をと言うと、「他に困ってる人がいたときに助けてあげて下さい」と一言！素敵などとも優しいママに救われ、次女にもすぐ笑顔が戻りその後は安心して楽しい温泉旅行に行くことができました。

次女はその日お漏らしすることせず…お守りのようにそのオムツを袋に入れその後のお漏らしも減りました！理由も聞かずにオムツをくれた素敵なお母さんのように、私たち家族も困っている人がいたら助けようと心に誓った楽しい夏の思い出になりました。

わたしは誕生日がまさに 8 月 15 日でお盆真っ只中なのですが、小さい時は大体友達皆家族でお墓参り兼ねて田舎へ帰ってしまう子ばかりで、そんな中家電に(30 年前なので携帯などない)友達が「おめでとう」と電話くれたのですが日にちが 1 日ズれて覚えられていたり、おめでとうの声の後ろではお経を讀んでる声と共に鈴の音がきこえてきたり、お盆なんだってことを痛感させられる誕生日を送っていました。

そしてある程度大きくなってからは誕生日当日やその前後に祖母や祖父のお参りに行くようになり、親戚の人からのおめでとうの言葉に変な感じを抱いていましたが、唯一家族から朝起きた時に「誕生日おめでとう」って言って貰えたときの暖かい気持ちは今でも覚えています。

そして自分も子供を産み、大きくなった息子からの「またひとつ老けたね」は 1 番のお祝いの言葉になりました。お盆に生まれたからこそその寂しさはありましたが、大人になるとこれも家族が居たからこそのいい思い出です。

私の住んでいる地域では、お盆に納涼祭があり家族そろってシートに座って催しを見ることを楽しんでいました。弟とは 12 才差があり、弟はちょうどヒーローにハマっていたため、もちろんショーを楽しみにしていました。その頃弟は 4.5 才だったように思います。

ショーが始まり、周りの子供たちは「がんばれ！」と熱い声援を送る中、弟はじっと見ているだけ。敵にやられそうになる場面が始まると、私の足の間に座っている弟に力が入るのが分かりました。どうやら世界に入ってしまったよう。やっと声が聞こえたかと思ったら目に涙を浮かべ「がんばれー」と振り絞って言う弟が可愛く、のちに大きくなってきてもしばらくの間ネタになっていたほどです。

時が経ち、弟も 18 才、私にも息子が生まれ、弟にあそんでもらうこともしばしば。実家には弟が昔集めたヒーローのおもちゃがたくさんあり、興味を示し始めた息子に貸してくれては、まだ使い方の理解も難しい息子に細かいギミックを教える弟(笑)弟なりに息子を相手してくれようと頑張る姿に、ショーをみて感情移入して泣く弟がずいぶん成長したなと思う姉なのでした。

コロナ禍になり、地元の納涼祭りもしばらく開催されておらず、2 歳の息子はまだこのお祭りに行ったことがありません。弟のショーを見ての反応を知っている私は、息子がどんな反応を示すのかと楽しみでしかなく、そこに一緒に行くであろう弟と一緒に見て、すかした顔をしていたならば、「必死で応援して泣いてたんだよ〜」と泣いていたエピソードを投下したいと思っています。

毎年お盆になると、叔父との楽しい思い出を思い出します。

私の実家では毎年、お盆の時期になると親戚が集まって、1週間ほど滞在するのが恒例になっていました。母方の叔父は、多くを語らない人で、お盆でしか会えない人でした。

私が中学3年生のとき、明け方こっそり抜け出して、叔父のバイクの後ろに乗せてもらい、海まで行ったことがありました。当時、自転車しか持っていなかった私は、自分の中の地図がどんどん更新され、世界が広がっていく感覚を全身に感じていました。

海から朝日が登ってきた頃、叔父は「でかいだろ？ 敵わないよなあ」といって微笑んでいました。私は感動のあまり言葉が見つからず、ただただ圧倒されていました。

そして、みんなが寝ているうちに家に戻りました。私は、興奮して狸寝入りすらできなかったのをよく覚えています。今でも、お盆の時期になると、あの日の叔父と見た朝日を思い出します。

私は高知県西部の、海と山と川に程近い、自然豊かな場所で育った。

お盆になると、たくさんの親戚たちが我が家にやって来るため、祖母と母は毎年早くからお盆の準備を始める。家の外周りの掃除に始まり、庭の草をむしったり料理を仕込んだり、仏壇を清め祭壇を作ったりと、まあとにかく大忙し。子どもの私も、この時ばかりは遊びにも行けず、家の手伝いに駆り出されていた。

そんなある日。隙あらばすぐに釣りに行こうとする、釣り大好き人間の父が行動を起こした。猫の手も借りたいほど忙しかけている家族を尻目に、朝からこっそり釣りに行こうとしたのだ。

だがしかし、勘の鋭い祖母も負けてない。すぐに父の思惑を察知し、どやしつけた。

「お盆に殺生したら、いかに決まっちゃうよ！釣りはいかに！」

それを聞いた父は悪びれもせずこう言った。

「ほんまか？そんなこと聞いたことないがやけど。なら、坊さんに聞いてみよ」

そう言って父は、毎年お盆に我が家を訪れ、仏壇でお経を読んでもくれるお坊さんに電話をかけた。すると、お寺の人が出てこう言ったのだ。

「坊さんは今日、釣りに行っちゃうよ、いません」

結局、お墨付きを得て出かけた父は、大量のイサキやらグレを釣って、ホクホク顔で帰ってきた。呆れ顔の祖母も家族も、新鮮なお刺身や焼き魚を前にすると、もう完敗だ。みんなで美味しくいただいたのだった。

もう 30 年以上前ですが、僕が小学生だった頃、お盆に母方の祖母が住むお家に、毎年泊まりでお邪魔させていただいていました。

祖母はもちろん優しくしてくれましたし、叔父や叔母は僕が経験してこなかった事を、いろいろさせてくれました。例えば、ウォータースライダーのあるプールだったり、釣り堀だったり、ゴルフの打ちっぱなしだったり。僕の両親がしないことを経験させてくれました。

その中でも一番の思い出は、某ハンバーガーチェーンでの持ち帰り。

昼食代にとお金を頂き、どこで食べてもいいと言われ、初めて一人でテイクアウトするというのが、ど田舎に住んでいた当時の僕としては大冒険で、持ち帰って食べたあの味は今でも忘れられません。

そんな僕も子供が出来て、息子はもうすぐ 4 歳になろうとしています。

お盆に関するエピソード募集で今回の経験を思い出したので、今年のお盆は息子にも何か経験をさせてやろうと思いました。計画してるのは、初めて一緒に電車に乗り、空港に行って飛行機を見に行くという計画です。

息子にとって、どんな思い出になるかわかりませんが、まとまった休みが取れるお盆休みだからこそ、やれることはあるはずなので、今年から毎年何か経験をさせてあげようとおもいます。

私の子供たちや従兄弟の子供たちがまだ小学生だった頃、お盆には家族、親戚一同が実家に集まり賑やかに過ごしました。

日中は庭にプールを用意して子供たちは遊び大人はバーベキューを楽しみ、子供たちのおやつは祖母特製のサイダーを使ったフルーツポンチがお決まり。

そしてお盆のメインイベントは祖父による「お盆玉」と称する小銭の掴み取り大会。

子供たちが誰が 1 番多く掴めたか家中が大盛り上がりでした。

そんな子供たちも今では成人してそれぞれに予定ができて大人数で集まることも少なくなりましたが、いずれかそれぞれの孫を連れて集まるような時代になったらまたあの賑やかなお盆の楽しさを再現したいと思います。

久しぶりに家族 3 世帯 15 人が集まり、皆んなでスイカ割り🍉をやることに！

おじいちゃん、おばあちゃんに還暦祝いと重ねて、スイカ割りを綺麗にしっかり割れた人におじちゃんからお年玉 1 万円がもらえることに！

バンザイ) ^o^(　そしてドキドキしながら　スイカを待っていると、畑からおばあちゃんが取れたてのスイカを持ってきてくれました。かなり大きなスイカ！

さあ！始めようとした同時に、おばあちゃんが机に置いた瞬間、かなり重かったのか！　なんと、そのままパカーンとスイカが割れてしまいました！

なんと、おばあちゃんがおじいちゃんからお金を！と思いきや、皆におそろの T シャツを買って、皆でおそろで着ました！　これがまさかに、皆一体ですねと。おばあちゃんに感謝一杯です。

長生きしてね！おばあちゃんとおじいちゃん！そしてありがとう😊　私は嬉しくて涙しました！

お盆といえば、毎年おばあちゃんちに行くのが毎年恒例。おじいちゃんちなのおばあちゃんちと言うのもお盆あるあるのでは笑

お盆がなにかもわからない子ども時代…到着して、きゅうりの馬となすの牛をみて、おうまさんとうしさんだー！とはしゃぐわたしと妹。そのうち、あれをつくるのをわたしたちのお仕事として残してくれるようになり、おばあちゃんちについたら馬とうしをつくる係に任命されました！

そして、馬をつくりおわると…いとこのおにいちゃんに、お馬さんやってー！とせがみ、背中に乗せてもらってました。姉妹が交代でエンドレス…いとこのおにいちゃん、大変だっただろうな…笑